

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp
森山隆携帯: 090-3343-9155
Line: 隆携帯番号検索
Facebook: Takashi Moriyama 検索

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき、誠にありがとうございます。
全国的に「梅雨らしい梅雨」となっている様です。
一部の地域では激甚指定を受けるほどの雨の被害が発生している様です。
お見舞い申し上げます。

6月から続いている梅雨はこちらの新潟魚沼でも開けておらず、作業遅れが発生しないよう切花農家の皆様は日々頑張っておられます。

コロナウイルスの話題にも触れなければいけないと思いますが、①持続化給付金申請、②政策金融公庫からの借り入れ準備、③収入保険への加入準備、④セイフティーネット事業で予算付けされた様々な補助事業の申請作業など忙しそうです。魚沼地区では、山菜を中心に前年比 35~40% (期間合計) の売り上げ減少となっており、現状では切花以上に深刻な結果となりました。

業務需要消費割合の高い農産物だったという事なのでしょうか？

将来、国が目指していく、求めていく事になるであろう農業従事者モデルを設定して、救済していく、そんなやり方に見えるこの事業に参加する為、通常の営農作業とは別にプラスα一人分二人分の業務をこなさなければいけない様子です。

*今回の国庫事業は、今までの補助事業と随分違って見えるのは、農家の自主性が大きく求められている点ではないでしょうか。

農家の判断と決断が求められているように見えます。そして地方、地域行政と、農協の力・事務力が再度クローズアップされているように見えます。自民党と農協は仲直りしているのでしょうかね？

今回の新型コロナウイルス騒動は、私自身が早くも 2025 年、遅くても 2027 年くらいに起きてしまうであろうと想定していた切花市場環境が、いきなり前倒し、加速がついて起きてしまったんだろうなああとらえています。

尋常ではない厳しさですが、それは 2017 年を起点に 7~10 年後に起きることを想定していた市場環境に対応する準備が、切花産業に関わる全ての業種の皆が、十分な準備ができていない中で、新型コロナウイルスの為に新市場環境がはっきりと見えてきてしまったから、大変なことになってしまったんだろうなあ〜と感じています。

2017 年の 2 月~4 月期くらいから明らかに切花市場の変化が見え始めていたはずですが。(振り返ってみればそこが起点だったという事。それ以前から分析、想像できていたことが、数字上でもはっきりと可視化できてきたという事です。)

日本の切花市場の今後をどうとらえていくのか？

私個人的には、「**続けていく**」。そのことを前提に提案し続けてきているつもりです (どんなにネガティブにとらえられていたとしても、私の市場分析が誰よりも厳しかっただけですから。)

準備し始めていた人、これから準備を始める人、深谷地区の雪害復興対策事業その他の関係で（激甚並みの判定を受けて、復興した温室・営農）75歳を超えていたとしてもまだまだ何らかの営農を継続していく人。

進んでいく方向さえ決まれば、そして覚悟さえ決まれば、やるべきこと、やれる事の選択はそんなに難しくないんだって思います。

皆さんだったら大丈夫ですよ！すぐに準備できるはずですよ。既に準備を始めていた方たちも大勢おられるでしょう？

新潟県魚沼地方の百合切花は出荷がやや遅れ気味？追いつきつつあるように見えます。

北関東・東北・北海道もやや遅れ気味？追いついてきていますか？

梅雨が明けて夏本番を迎えるころから、本格的な市場結果をふまえた分析が始まるんだろうなあと考えております。

今回の球根情勢報告は、数年ぶりに書くちょっと長めの報告となります。お付き合いくださいますようよろしくお願いいたします。

※なお、久しぶりの情勢報告となります。この三十数年来蓄積してきた花卉園芸卸売市場統計をはじめ、11~13種類の関連資料データを考察の為に資料として使用します。ご希望があればそれらの資料提供いたします。よろしくお問い合わせください。

2019年産オランダ産フランス産百合球根輸入状況

前前年	2017年産	約	86,830,000	球	残念ながら系統別に分類できる資料はありません。
前年	2018年産	約	81,860,000	球	残念ながら系統別に分類できる資料はありません。
*1	2019年産	約	64,400,000	球	(6月末日植防統計値)

※過去8年間の植防統計値を分析すると、期間中の8年間では6月末までに輸入されている百合球根数は、当該年の総輸入数量の82~85%くらいが入荷されている様です。

従って、19年産については、最終的に約76,000,000~78,600,000球くらいが入荷されることになろうかと思えます。(前年比4~7%間の減少予測となります。)

球数だと、約3,300,000~5,860,000球の減少となる様です。

7%、5,860,000球の減少予測は、ここまでの所一軒の輸出業社の情報にもありませんでした。イメージとしては、4,000,000球内外の減少となるのではとの予測です。

※特記事項は、3/4/5/6月期の単月輸入量の動き、各月の増減です。

3月末期までの累計輸入量が、4,200,000球も減少していました。

従って、6/7月期採花作型2か月間の作付け量は推定1,500,000~2,000,000球くらいの作付け量減少が起きていると分析していました。

※この作付け量減少は、コロナ前から計画されていた減少なんだろうと思えます。それとも加温施設栽培の皆様が急遽作型を変更した等の影響もあるのでしょうか？

7月の天候不順も相まって、6月15日以降、コロナの影響があるにもかかわらず、中山間地高冷地産切花価格が比較的安定しているように見えるのは、この作付け量減少もいくらかはプラスに機能しているのではないかと想像しています。ただし、最高値カテゴリーの価格帯ではやや苦戦の傾向です。加えて最下層価格帯も、やや方向感のない相場展開となっている様です。

※いずれにせよ、流通量減少が、卸売市場単価に反映されている期間が1か月以上続いている様です。

8月以降~年明けの1~3月末くらいまで、この19年産北半球産百合球根が使用される切花出荷作型が続きます。目に見えた作付け減少となるかどうかはまだ分かりません。(O.H/O.T/A.H/L.A/Longi)

品質

「力」はあるように見えます。「リン付き」は、平年並み。「ウイルス」はやや多め。

輸出業社圃場調査経過報告によれば、「LMOV」。このウイルスについては、20/21年産までその影響が残るとの分析・報告とがあらがってきています。有望品種に見えているイノベーター、ビナスコなど警戒が必要との事。(輸出業社報告)

「ブラックノーズ」「不発芽」は、事故率はさほど高くないものも、まんべんなく様々な品種に発生しているように感じています。

近年毎年のように起きていた、「低温積算不足」による休眠がきれいに破れていない問題は、比較的うまくいってる年となっている様です。

当社の状況

前年比約7%強の取り扱い減少が予定されており、4月の段階で約200,000球内外の在庫がございました。(切花農家お客様がご病気事故等によるキャンセルが発生してしまった為の在庫)その後は球根品質不良(LMOV高濃度汚染等)による欠品等がございました。

在庫ができてしまった原因の切花産地、欠品対象となった切花産地に代替使用を依頼し、お引き受けいただく事ができました。

この為現在は、ほぼ在庫が無い状態です。感謝しております。

*切花市場が不透明な為「作付けを減らしたい」という希望が上がったケースもありましたので、それらの品種球根を新規問い合わせがあったお客様に紹介するという形で需給調整を続けていました。

可能な限り「タイトな球根流通状態」に整備しているつもりです。

品質不良による欠品は今後も発生することが予測されます。不足が生じた場合では、減らしたい希望があるお客様の球根を紹介するという、従来はとっていなかった方法で対応を進めていきます。

従って、定期的に「在庫表」を送付することは実行していません。

ご不便をおかけいたしますが、必要球根がございましたらお問い合わせください。

個別案件として対応いたします。よろしく願いいたします。

2020年産南半球産百合球根輸入状況

	OH/OT系	AH/LA系	
2018年産	20,537,000	790,300	(球根業社からの聞き取り、植防値で裏付け)
2019年産	20,331,820	973,950	(球根業社からの聞き取り、植防値で裏付け)
2020年産	19,789,000	1,056,850	(2020年3月9日輸出業社からの聞き取り調査数)

本年3月中旬までに日本市場は、前年比97.8%の南半球産百合球根発注確保していました。

結果論で言えば、その段階で20年産南半球産百合球根を発注確保していた国は日本以外ではほとんどなかった情勢でした。(台湾のような新型コロナウイルスに対しての慎重さが無かったのかもしれませんが。結果論です)

そして新型コロナウイルス騒動を迎える事となりました。

瞬間的には当社のみならず、日本の球根業者の大半は、お客様からの受注の割合で前年比80%受注、確保球数に対して85%くらいしか取引が進んでいませんでした。

4~7月期、コロナ禍における営業販売活動は、極端に言えばほぼ休止状態となっています。

現状は…、

その後新規受注につきましては、いくらかの進捗はありますが、在庫を大きく減らすところまでには至っておりません。「いっそ輸出業者にキャンセル依頼を出そうか？罰金を払ってでも…」と考えていた次第です。

*国内への輸入量が減った方が結果的に切花価格の安定化につながるのではないかと？そういった分析をする球根輸入会社が圧倒的に多数でしたから…。まっとうな考え方だと思わざるを得ないです。

6月7月に入り、NZ、CHともに掘り取り作業が開始されてきています。

前記しましたように、今日現在に至るまで、南半球産主要消費国であるアジア諸国・オセアニア・南米・北米・アフリカ etc. からの注文作業は大幅に遅れている、又は経済動向のあおりを受けて大幅な消費減が見込まれています。(7月21日時点では、中国市場は依然目途が立っていないとの事。)

この為、NZ・CH 両国ともに掘り取り放棄、掘り取り後ただちに廃棄にまわす品種・球根が出始めています。

*元々南半球産でも球根生産過剰感が続いていました。それがはっきりと目に見えただけという分析もあります。(中国市場をどれだけ重要視するのかの度合いで見解は分かれています。)

*日本全体の発注確保量調査(輸出業社からの聞き取り調査)は、掘り取り結果が出そろそろ 8月中旬くらいに2回目の調査を行いたいと考えています。

当社の場合…

すでに前年比の発注確保量は、前年比86%にまで減少。

帳面上の受注量も前年比ようやく81%内外となってきています。

瞬間的には約330,000球もあった帳面在庫(当社契約確保済み分)は、A.H/L.A/O.H/O.Tすべて合わせて約173,000球まで減少してきました。

今後も欠品は続くと思います。(あとのどのくらい減るのだろうか?)

最終的に日本に入る球数が、需給バランスが取れるくらいまでに減少してくればよいのだが、と願っています。

*7月20~21日の2日間までまとまった欠品が入ってきました。当社帳面在庫だけでなく、皆様からご注文いただいている品種の欠品も発生しつつあります。(CH産ベンドーム、コンパニオン、シャブリ etc.)

ご迷惑をおかけしております。申し訳ございません。

球根品質については、3月上旬にNZ産現地調査を行いました。その後は輸出業者自身も現地NZ、CHに入ることができておりません。

一部輸出業社から球根掘り取りの様子、芽形成状態等写真を送っていただいた情報のみとなります。

入荷後にしっかりと球根現物確認を行い、お繋ぎしてまいります。

*現地冷蔵庫にて冷凍開始後、船積み開始となります。(一部冷蔵輸入希望分を除き)7月下旬から8月上旬スタートの予定です。

2020年産オランダ産フランス産百合球根

2019年産北半球産球根/2020年産南半球産球根/2020年産国産球根までは、日本の切花農家・日本の球根業社は既に球根を確保手配してしまっています。(100%ではないにせよ)

北海道や新潟県内(一部西南暖地の切花産地)の国産球根使用切花産地は、2019年産オランダ産養成球を用いて20年産国産球を生産、2021年5月下旬以降の切花生産を行います。

20年産北半球産球根の受発注作業はまだ開始されてはませんが、国産球使用産地だけは球根確保が各々の使用予定球数の75~90%ほど確保作業が終了していると言えます。(例：津南/十日町/魚沼三山/他新潟県内農協/亀屋/養成球購入自家消費用球根使用農家/etc.)

この方たちは、逆に良いのかもしれない。

「決まっている事」「やれる事」を粛々とやるだけですもの。

迷わない分だけ、準備も早くなるのではないのでしょうか？

国産球使用型切花産地は、切花出荷期間が限定的な産地がほとんどです。

「ウィズコロナ」「アフターコロナ」と言われる新生活、新経済状況下での切花生産、既に準備を始めていたのが、「国産球使用型、適地適作型、作型別適球根適品種使用型百合切花生産」。

一番時代遅れではなくて、一番時代の先端に行けるチャンスだと思ってください。
逆風を追い風に！！大丈夫ですよ！皆さんは鍛えられていますから！！

さて、20年産NL/FR産についてです。

栽培面積表が発行されました。

残念ながら昨年以上に資料の価値は下がってしまっているように思います。

理由は、

生産面積非開示品種の割合が高まりすぎている為、その割合は品目系統ごとに若干の差異はあるにせよ開花球総面積に対して18.3%にあたる面積分が情報不開示となってしまっている様です。

これでは色別の動きすら把握できていないという事になります。

「社会共産主義じゃないんだから、自由主義なんだから」って言っていたはずなのに…。しっかりと判断材料を示した方が百合切花産業全体の為には良いように思いますけどね…。

栽培面積はトータルで12.1%減少です。十分な減少と言えるのでしょうか？

これは中国市場をどこまで本気のマーケットととらえるかで見え方が全く変わってきます。

当初から10~15%の減少が予測されておりました。

実際は、コロナ前から10%どころか15%くらいは過剰生産だと言われていたはずで。

今回コロナ騒動が起きても12.1%しか減らなかったと悲観的な捉え方が大半の輸出業者の分析となっています。

中国市場の捉え方次第ですが、25~35%くらい減るまでは、需給バランスが取れないという意見がある様です。

実際単年度ではいきなり25~35%の作付けを減らすことには無理があるとの事。(農家は、棚卸資産である原母球養成球を簡単には捨てられないという意味です。)

ここまでの所では、

ざっくり言って**オランダ切花農家(ここだけは絶好調との事)**、コロンビア切花農家、一部台湾、一部ベトナム切花農家、一部オセアニア切花農家、品目としては八重系オリエンタル、スカシユリ、LA、一部のOT系でゆっくりですが引き合いが出てきている様子です。

大半の国で先行き不透明感がある為に、動けていないのが実情です。それは日本においても同じ事でしょう。(日本が一番まじめで全うだと再評価されています！)

次回情勢報告時には「品種リスト」を作成したいと考えています。

在庫表・価格表を作成するにはもう少し時間がかかります。

どんなに遅くなっても8月下旬から9月上旬には必要球数の内一定以上の割合の球数を確保しておくべきだろうと考えておりますが…。まだ始めるべきタイミングがつかめておりません。

1億球内外~3億球消費国の中では、O.H/O.T消費量世界最大マーケットは、中国。信用信頼はガタガタになってしまっている様子です。シベリアの将来に悪影響が出ることが懸念されています。メキシコも相当厳しい。A.H/L.Aの14/16サイズ市場としては、世界最大マーケットです。コロナの影響は大きい。他の南米諸国も厳しい。

作柄については例年より早くに圃場調査に入ってくれています。近々に情報が入り始めます。

日本の切花卸売市場 市場規模 (切花類 農水省/市場協会発行数値より)

1984年	1900	億円	
1985年*	2203	億円	
1995年*	3910	億円	(10年間で2000億円以上売り上げが伸びた！)
1998年	4216	億円	(ピーク平成10年です。)

2005年*	3400	億円	(既に市場間2重流通が増加し始めていたはずだから…。実際はもっと少ない筈です。)
2015年*	2936	億円	
2019年	2640	億円	(1～6月期売上推定額1240億円。7～12月期1400億円)
2020年*	2350～	億円	(自社予測) (1～6月期にて約220～240億円売上減少??後半戦6か月はどうなる?)
コロナ	2500		
2021年*	2450～	億円	(期待を込めた自社予測) (回復を期待しています。)
コロナ	2600		

*近年では市場外の売り上げ規模は、輸入切花占有率が高いとはいえ、卸売上額のピークだった1998年当時の400～500億円規模から倍増していると考えています。(1200億円内外。ただし卸売、小売価格が混在。卸売市場から物産館、道の駅、直売所などに流れている金額が含まれている、との情報あります。数百億円分?)

輸入切花の流通傾向を調査すれば見えてくることなのですが、百合とバラは輸入品だったとしても、卸売市場を通した流通シェアが高いです。(65～75%??)市場帳合が必要という事は、それだけ取り扱いが難しいという事なのだと思います。(在庫管理・品質管理まで含めて)

一方、菊・カーネーションは、市場外流通シェア割合が高まっています。(中国が絡む花材は、市場外が増加?)

百合切花は卸売市場販売ルートが大きなカギを握っていると思います。

①業務需要法人需要市場(競り人付度あり)

②個人消費花材(競り人が付度しきれなくなる)

営業活動が出来なかった約4か月間ずいぶん考えさせられました。

*20年産NL/FR産球根買い付けの最も重要なポイント、見極め、考え方の整理をするポイントになるだろうと考えています。

この部分についての掘り下げた解説は、また別の機会にお繋ぎいたします。

新しい花消費時代へ向けて

全国の百合切花産地の皆様は、それぞれの産地、しっかりと守るべき作型を見極めていただきたいです。

それらの作型用球根が皆様にとって確実に必要な球根となるのではないのでしょうか?

「元に戻る」この言葉は使いにくくなっていませんか?

古くて新しいネタです

日本の切花市場の売り上げ構成は、主要10花材で約80%の売り上げが構成されています。

百合はその中の一つです。そして、それら主要10花材の目指していたマーケットは…、

7か月～12か月に及ぶ生産出荷期間が設定されていた花材とは…、

*業務需要用花材だったのではないのでしょうか?(少なくとも目指していた供給形態、消費形態は。)

新時代の個人消費市場は、今まで以上に多くの花材が参入することになるのでしょう。

日本の切花市場は、世界の一般的に言われている個人消費市場とは一線を画す独自の個人消費市場を形成していく事になるんだと思います。そして最終的には、世界が日本の個人消費市場形態に後から追いついてくることになるんだと思います。

そのことに気が付き始めた40代が少なからずいてくれたこと、「**続けていく**」仲間がいてくれた事が最大に明るい材料でした。「20代30代50代60代70代80代」

「大丈夫ですよ！」

特に58歳以上の皆様は、自分たちが知っている昔のことが今の若者にとっては「経験のない未知な世界」「新しい世

界」ですから。絶対に経験が生かされるはずですよ！それは新しいことですから！「見方」と「見え方」が違うだけです！

ご注文の準備を進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

参考資料

- ①農水省/卸売市場協会花き流通状況調査表（1985～2019年）
- ②総務省/生花類家庭消費購入先別支出先別割合（2014年調査分/最新2019年調査は2020年年末までに発表。）
- ③大田花き研究所からの聞き取り表
- ④東京都中央市場4～6月期流通動向調査表
- ⑤39/40協力市場（全国シェア率71%強）による百合切花流通動向（2002～2020年6月期）
- ⑥29協力市場（全国シェア率58%強）による百合切花価格帯別流通動向（2016～2018年）
- ⑦29協力市場（全国シェア率58%強）によるO.H/O.T系流通本数内シベリア/カサブランカ/その他品種の割合（2018～2019年）
- ⑧植防値/主要切花類輸入状況（2000年以降から調査を開始して直近2020年6月まで）
- ⑨植防値/百合球根輸入量（1992～2020年6月まで）
- ⑩NL産百合球根栽培面積表（1991～2020年速報値）
- ⑪リリーアンバサダー市場協会加盟市場22社からの「現状の市場状況と今後の見通し」についての質問した回答表（6月末日現在）
- ⑫その他
全農にいがた様、埼玉様他、各農協様からご協力いただいているデータ、様々な花き流通関連に関わる資料。

*様々な個別市場データを供給いただいておりますが、本来まとめた数字しか見ないようにしています。時々各市場様より具体的な説明をありますけどね。

情報は悪用しない。私的に利用しない。結果として情報共有させていただいております。

以上

森山 隆